



リアス線開通と 台風災害からの復活

平成31年3月、盛久慈間163^{キロ}がつながるリアス線が開通。追い風が吹く三鉄に、台風19号による豪雨災害が襲い掛かりました。再びの運休から、立ち上がった三鉄の歩みと、現在の三鉄についてみてみましょう。



折笠駅～陸中山田駅



大槌駅～吉里吉里駅



宮古駅～磯鶏駅

あまちゃん放映

東日本大震災からの全線復活を遂げる、約1年前、三陸鉄道に大きな転機が訪れます。NHK連続テレビ小説「あまちゃん」の放映開始。劇中に登場する北鉄は、三陸鉄道がモデルといわれ、全国から観光客が訪れ、三陸鉄道の名前は、さらに全国に広まりました。

リアス線開通

平成31年3月、壊滅的な被害を受けたJ.R山田線釜



土砂が流れ込み線路が破損
大槌駅～吉里吉里駅
(令和元年10月13日撮影)



路盤が削り取られ中刷りになった
織笠駅～岩手船越駅の線路
(令和元年10月24日撮影)



令和元年台風19号被害から再び復活
復興スタジアムでワールドカップの2試合目が予定されていた10月13日、台風19号が東日本全土を襲いました。試合は中止され、三陸鉄道も線路の路盤流出など合わせて93カ所が被災し、全線の7割に当たる113.7^{キロ}が不通となりました。震災の経験を踏ま

え、すぐに被害状況を調査。東京オリンピックの聖火を「復興の火」として、列車で宮古から釜石まで運ぶことが決まっていたため、何としても、それに間に合うように復旧させると方針を固めました。

令和元年11月に、津軽石宮古間、12月に田老野畑間、翌令和2年1月に、陸中山田津軽石間、2月1日に田野畑普代間、そして3月14日に、普代久慈間が復旧。3月20日には、釜石陸中山田間が復旧し、全線が運行を再開しました。

台風からの復旧が完了した令和2年度は、新型コロナウイルスの影響で、観光を中心に団体客、個人客とも大幅に減少。年間運賃収入は平年の約5割減少の見込みです。

三陸鉄道は、地域の皆さんの足としての役割と地域経済の活性化に貢献するという2つの役割を掲げています。今後もワクワク、ドキドキするような取り組みを予定しているそうです。皆さんもこれを機に三陸鉄道を利用してみませんか。

石宮古間がJ.R東日本による復旧工事を終え、三陸鉄道に移管。南北リアス線と旧山田線は統合されてリアス線となり「三陸縦貫鉄道」盛久慈間163^{キロ}が一つの路線として再びつながりました。

開通後は、多くの皆さんがスタートを祝い、多くの乗客でにぎわいました。9月にはラグビーワールドカップの試合が、釜石鶴住居復興スタジアムで開催され、大勢の観客が三鉄に乗車しました。